

みんなで作る むらのルール

日吉津村

自治基本条例策定委員会

協議中

今後の村がどうあるべきか活発な意見交換が行われています!

今年9月、自治基本条例の策定を進める組織として、「日吉津村自治基本条例策定委員会（以下、策定委員会）」が発足しました。公募（30代～60代）10名、各団体代表8名、職員2名の計20名で構成し、運営されています。

策定委員会は、全体会議とグループ討議（3グループ）を中心に活動しています。現在、5回の会議を重ね、「行政・議会・村民・地域等について今後どうあるべきか」という内容で、各委員から意見をいただき、それをもとにグループごとに意見交換を行なっているところです。今後は、話し合った内容を条例の項目ごとに振分けながら、村民の立場から条例に盛り込みたい内容を検討していきます。

こうしたい!!
ああしたい!!



あれや
これや!



「今後のむらがどうあるべきか」主なご意見!

下記は委員の個人的な意見で、条例に盛り込むことを決定したものではありません。

行政

村長は、我がむらをどういうむらにしたいのか、方針を明確に。
職員はコーディネート役になる。
村民の問い合わせについてスピード感に欠ける。
諸行事に対して、計画性が乏しい。

議会

議員活動の内容が今ひとつ分かりにくい。
もっと村全体のことを考え、行動してもらいたい。
議会の様子など村民と対話する機会が欲しい。
議会は、委員会を含め全面公開として欲しい。

その他

「参画と協働」を目標とするなら、様々な情報を互いに共有し、理解し考えていける仕組みが必要。
安全・安心して住めるむらであって欲しい。
「ガッツ日吉津っ子」を育成する。
シンボル「チューリップ」は何とかならないか。

村民

補助金体質が抜けない人が多い。
自分たちが住むむらは、自分たちが創るという意識を持つ。
村民は、権利を期待するなら義務をしっかりと果たし、責任を持って行動・発言する。
地方自治に積極的に参加する。
海岸・河川等自然を大切にする意識を持つ。
村民の中には豊富な知識と経験、視野を持った人がいる。

地域

自治会未加入者の対応が必要である。
自治会内のコミュニケーションが取りにくい。
隣近所の繋がりが希薄となり、コミュニティ活動の輪を広げることが必要になっている。
自治会の区域割りや組織のあり方を考える時期にきている。
地域活動に参加する人が少なくなっている。
各自治会公民館を開放し、活用できないか。